

### 3. くびなが竜が泳いだ海（中生代のころの浜通り）

日本列島は、古生代末から始まった造山運動によって、隆起、沈降を繰り返しながら、大陸の一部となり陸化していきましたが、ジュラ紀に入ると、日本海側から海進が始まり（現在の日本海のもとになる）、陸地の一部は沈降をはじめ、太平洋側の海岸線も入江ができたりして、海岸線がデコボコになりました。

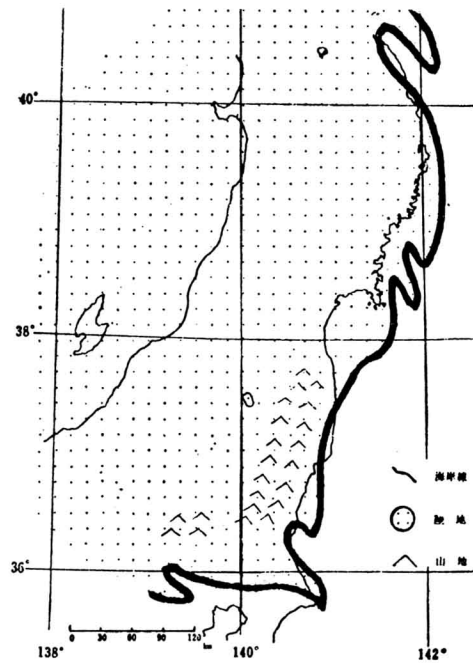
この時期の浜通り地方の地層で、ジュラ系のは相馬層群として、原町市の高倉から新地町の鹿狼山へ10数kmにわたり帯状に分布しており、これらの地層からは、アンモナイト、二枚貝のトリゴア、ソテツ類、シダ類などの化石が見つかって

います。これらの化石から、ジュラ紀の浜通りは、海成層に始まり、陸成層さらに海成層へと海進、海退をくり返した跡があり、その頃の陸上には、裸子植物やシダ植物が繁茂していたことがわかります。また、いわきから相馬地方にかけて、白亜系の双葉層群が四倉町玉山付近から富岡町上手岡にかけて、くさび状に10数kmにわたって分布しています。岩質の多くは硬質で、暗青色の砂岩、又は砂質泥岩です。

これらの地層からは、アンモナイト、イノセラム、トリゴニアが見つかっており、最近、く

びなが竜が発見され、一躍いわきの白亜層は有名になりました。

白亜紀の終りから、第三紀にかけて、日本列島に分布する大部分の花崗岩の貫入や、大量の火山岩の噴出がおこりました。この地殻変動で、阿武隈山地には、花崗岩が大規模に貫入しました。



第三紀以前の海と陸(福島県史より)